

OEC株式会社 様

ファイルサーバーを全社統合し より強力なランサムウェア対策を実現



OEC株式会社 藤井盛人氏(写真中央) / 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 河本淳志(左) / ネットアップ合同会社 古家野巨樹氏(右)



目標

- 部門ごとに運用する10数台のファイルサーバーの統合化
- 情報資産/データ保護を全社レベルで高度化・均質化
- ランサムウェアなどの脅威に対するセキュリティの強化



成果

- NetApp FASにより高信頼の統合ファイルサーバーを実現
- 高頻度のSnapshot取得によりデータ喪失リスクを低減
- 岡山-東京間でデータを二重化しBCP/DR対策を強化

岡山県を基盤にICTソリューション&サービスを提供するOEC株式会社
が、100TB規模の全社統合ファイルサーバーを整備した。高信頼の
NetApp FASストレージを採用し、部門ごとに運用されてきた10数台の
Windowsファイルサーバー/NASを統合。自社が持つ情報資産/データの
保護を全社レベルで高度化・均質化するとともに、業務時間内に高頻度で
Snapshotを取得してデータ喪失のリスクを低減している。「ランサムウェア
対策」にNetApp FASストレージ/ONTAPを適用した注目事例である。

100TB規模の全社統合 ファイルサーバーを構築

OEC株式会社の歴史は、岡山情報処理センターとして設立された1969年
まで遡る。以来、長年にわたりシステムインテグレーションやアプリケー
ション開発、クラウドサービスの提供を通じて地元企業・自治体の情報化
に貢献してきた。OECに社名を変更したのは創立50周年を迎えた翌年、
2020年のことだ。同社 ネットワークサービスグループの藤井盛人氏は
次のように話す。

「パッケージアプリケーションやクラウドサービスの展開によって、私たち
のビジネス領域は全国規模へと広がっています。一方、地元企業様や自治
体様の基幹系・業務系システム構築などインテグレーションビジネスも
堅調です。こうした高い信頼性が求められるシステム構築案件で、私たち
が積極的に提案しているのがNetAppストレージです」

OECでは、2013年よりNetAppストレージによる仮想化基盤やファイル

サーバー環境の構築を手掛けてきた。顧客向けファイルサービス/データ
保護サービスのシステム基盤にも採用しており、NetAppのストレージ
OS[ONTAP]が提供する様々な機能に精通したエンジニアも多い。

「私たち自身が2022年に実施した『ファイルサーバーの全社統合』でも、
全社の総意でNetAppストレージを採用しました。Windowsベースの
ファイルサーバーやクラウドストレージと機能やコストを慎重に比較検討
しましたが、NetAppストレージ/ONTAPの優位性は明らかでした」
(藤井氏)

藤井氏は、ネットワークサービスを切り口に、顧客である自治体・企業へ
幅広い技術支援サービスを提供するとともに、そのノウハウを活かして
OEC社内のICT基盤整備をリードしている。

ウィルス感染の前例がない NetAppストレージを採用

OECでは、部門単位・プロジェクト単位で10数台のWindowsファイル
サーバー/NASを運用していた。これを全社統合する目的はどこにあった
のか。藤井氏は次のように話す。

「経営情報、営業資料、アプリケーションのソースコードまで、様々な情報
資産/データが社内の複数のシステムに格納され日々利用されていまし
た。問題は、環境ごとにセキュリティやデータ保護レベルが大きく異なっ
ていたことです。これを高い水準まで持ち上げ、全社で均質化することが
統合ファイルサーバー構築の最大の狙いです」

藤井氏は、ストレージ製品の選定に際して次の要件を策定した。

- ①高い信頼性・可用性を実現するシステムアーキテクチャー
- ②ランサムウェアなどのセキュリティリスクを低減する機能
- ③ローカルおよび遠隔地でのデータ保護を容易にする機能
- ④データ量を抑制する機能、無停止での容量拡張

「NetApp採用の決め手になったのは、ONTAPが提供するデータ保護機能の優位性でした。ランサムウェア対策には、バックアップを高い頻度で行い、万が一プライマリのデータにアクセスできなくなったときに、いち早く復旧できる体制を整えることが重要です。Snapshot、SnapMirror、SnapRestoreといったONTAPの機能をフルに活かします」（藤井氏）

NetAppストレージ/ONTAPの優れた信頼性・可用性は、多くの顧客環境での運用実績で証明されておりOEC社内での評価は高かった。

「さらに、私たちが注目したのは『ONTAPそのものにウイルス感染の前例がない』という事実です。ランサムウェア対策を重視するファイルサーバー環境では、最も評価すべきポイントのひとつと言えるでしょう。NetAppストレージなら、Windowsファイルサーバーのような頻繁なアップデートも、ディスク増設に伴うサービス停止も必要ありません」（藤井氏）

業務時間内に3時間ごとに Snapshotを取得

「NetAppストレージによる全社統合ファイルサーバーの本格的な運用を開始したのは2021年12月です。総容量100TBの新環境に10数台のファイルサーバーを集約し、セキュリティ、信頼性、データ保護レベルを一気に高め全社で均質化しました」と藤井氏は自信を示す。

新しいチャレンジは、「業務時間内での高頻度のバックアップ」と「遠隔地でのデータ保護」である。ONTAPが提供するSnapshotは、ファイルサーバーへの性能影響なしに論理バックアップを取得できるメリットが大きい。「朝9時から3時間ごと1日5回Snapshotを取得し、重複排除・圧縮されたデータをSnapMirrorで東京に設置したNetAppストレージに日次でコピーしています。これを7日分保護し、週次のデータは最長3か月前まで遡って復旧できます。ユーザーは、自らの操作でSnapshot領域から自分のファイルを取り戻すことができるようになりました。また、ユーザーの使い

勝手は既存のWindowsファイルサーバーと変わらず、運用面ではActive Directoryによるアクセス制御・権限管理も同等に行えます」（藤井氏）



OEC株式会社
ネットワークサービスグループ
ネットワークサービスチーム
課長
藤井 盛人氏

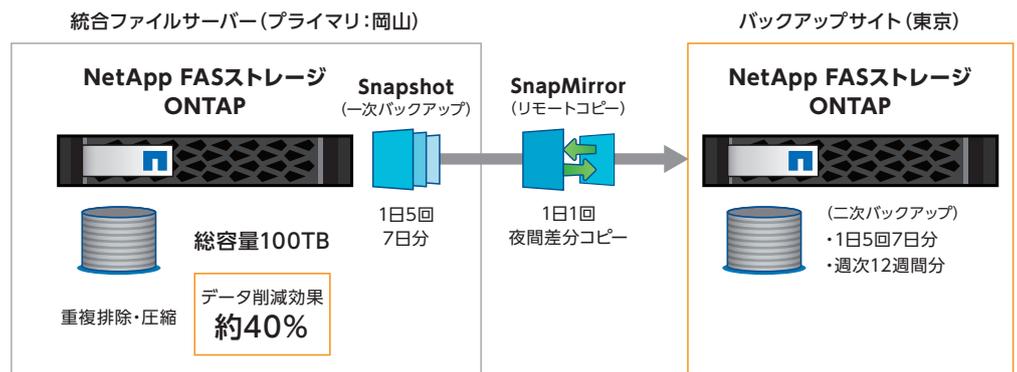
CTCによる自営保守で安心を万全に

CTCは日本で最初にNetApp製品の取り扱いを開始した最上位のパートナーであり、自営保守体制を整える数少ないSlerの1社だ。NetApp製品を利用するシステムの設計・構築・運用・保守における高い技術力が評価され「Support Partner of the Year」を10年連続で受賞。2022年にはAPACにおける「Service Partner of the Year」も受賞した。CTCの河本は次のように話す。

「NetAppストレージで検知された問題は、AutoSupportを介してCTCにも自動通報されます。CTCT岡山サービスセンターから自営保守チームがオンサイトで対応する際の万全な体制を整えています」

OECは、全社統合ファイルサーバー構築に際してクラウドストレージを比較検討したが、データ保護ポリシーとコスト面で採用には至らなかった。だが、藤井氏は「要件が顕在化したときに、NetAppならクラウドと連携できる、Cloud Volumes ONTAPという選択肢がある、という事実が重要」と言う。藤井氏は次のように結んだ。

「全社統合ファイルサーバーの構築に際して、私たちが策定したデータ保護と運用のポリシーを完全に実装できたのはNetAppストレージだけでした。ランサムウェア対策を重視するお客様へ、私たち自身の使用体験を通じてNetAppストレージの優位性をお話しできるようになったことも大きな収穫です。ONTAPのアンチ・ランサムウェア機能、Cloud InsightのCloud Secure機能もお客様へ積極的にご提案していきたいと思っています。CTCには、これからも優れた技術力でOECのビジネスをしっかりサポートしてもらえることを期待しています」



OEC株式会社

所在地 岡山市北区本町6番36号 第一セントラルビル3階
創立 昭和44年8月
URL <https://www.oec-o.co.jp/>

導入製品・ソリューション

NetApp FASストレージ

記載事項は、予告なく変更される場合があります。内容の一部または全部を伊藤忠テクノソリューションズ株式会社、NetApp, Incの許可なく使用・複製することはできません。NetApp、NetApp ロゴ、SolidFireは、米国およびその他の国におけるNetApp, Incの登録商標です。その他記載のブランド・製品名は、それぞれの会社の商標または登録商標です。